
自殺輪廻

速水 學

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自殺輪廻

【Zコード】

Z0948M

【作者名】

速水 学

【あらすじ】

彼はただ、死ぬことを繰り返す。
死ねない。死ねない。

彼は気が付かない。

俺は今、死のうとしていた。

理由は簡単。死にたいからだ。

通り過ぎていく人が俺を見る。人は俺を殺そうとしていた。

その目つきはきっと、

今の俺と相違はないのだろう。

彼らの目には憎悪と、興味と、ほんのちょっとの迷い。

その迷いすら憎悪に気圧されて隅に丸まつていふように思える。

彼らは俺を殺す機会を窺っているのだろう。

俺は静かに下界を見下す。

ビルの頭が小さく、それこそ蟻のように小さく見えるだけ。

静かに、少しだけ体を前に傾ける。すうっと意識が遠のいていく。

何時間も経つたのか。それとも数秒なのか。

俺は目を開けて、目の前に迫つた道路を見、そこで目を覚ます。

何度も見た夢。夢だと気付けない夢。

俺はいつも、そこで目が覚めて死ぬことが出来ずにはいる。

人が見ている。見ている。

俺を殺すのだろう。手に持つているのはカルテ?いや、きっとナイフだろう。

俺はまた死ぬことを考える。考える。考える。

考えて、どうも思いつかなかつたので人を殺そつかと考えた。傍にあつた果物ナイフで刺してみる。死ない。血も出ない。

急に興味を失つたので、今度は自分に刺してみる。痛い。傷口からは脈打つ心臓が見えた。傷を広げ、それを取り出して机に置く。

自分は狂い始めているのだと思う。時間がない。

今日はこのくらいにして死んでおこう。心臓を握りつぶす。いやな音と色の中に埋もれた心臓は、もう生きていはいなかつた。

そこで目が覚めた。いけない。また夢だと気付けなかつたのだ。自分はおかしい。きっとこの世界の人間ではない。早く排除しなくては世界の秩序が崩れてしまう。

自分を維持するには多数の犠牲を払わなければならない。そうだ、維持するためなのだから自分を捨てればそんなことはない。

結論はいつも死に達する。

俺は自分を殺す術を考え始めた。思いつかなかつた。薬はない。縛もない。

ならば舌を噛み切るのがいい。そうしよう。舌の付け根に歯を当て、思い切り噛み締める。噛み締める。噛み締める。

噛み締めて、噛み締めて、また目が覚める。どうしてだろう。

寝てもいよいのに、目が覚める。

周りが悪い。世界が悪い。自分のことを認めない世界が悪いのだけれど外にない。

僕はどこへ行けばいいの？泣いてもいいのかな。

何もない廊下には血の跡があつて何もないはずなのにみえるのは何故だろうと考える暇もなく僕は血を辿り廊下を後にしますそして血が辿り着いたのはひとつつの部屋でしたそこには僕が眠っています僕は彼と一つにならなくてはならないのです誰が決めたのかは分からなければならぬ決まりです僕は彼に重なるようになってベッドに入りました彼は死んだように冷たいので僕は笑つて泣きましたお母さん僕は悪い子でしたごめんなさいお姉ちゃんお父さんごめんなさいごめんなさい。

「今日は顔色が良いようです、先生。」

看護士である彼女は患者の体温を測りながら言つ。

「今日で2ヶ月目か。あいかわらず日は覚めないのか？」

「はい・・・身寄りもありませんから、このまま行けば安樂死は免れません。」

彼女は少し伏し田がちに言つ。

「そうか。ではまた変化があれば知らせてくれ。私はもう少し仕事を整理してから帰ることにするよ。」

「分かりました。お疲れ様です。」

「それと、患者の汗を拭いてやつてくれ。少し頬が濡れていよいよだ。」

(後書き)

言いたいことを言葉にするのはとても難しいです。

狂った感じを出すにはまだまだ未熟です。精進いたします。

彼はきっと寂しかったのだろう、と思います。

衝動的な文ですが、想像しやすいように作ったつもり・・・です！

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0948m/>

自殺輪廻

2011年1月19日07時51分発行